

移動支援をはじめたら、地域が介護予防に熱心になった話 (山口県防府市)



本事例のポイント

- ・ 地域のニーズを形にした幸せます健康くらぶ
- ・ 地域と企業・法人・介護事業所等の協働による総合事業の推進

「幸せます健康くらぶ」について

平成29年5月に本格的に実施

幸せます健康くらぶ



□■■ 予 定 表 □■■

- 10:00～ 送迎
- 11:00～ 介護予防教室
- 12:00～ 昼食
- 12:45～ 自由行動
(買物・おしゃべり)
- 14:00～ 現地出発

□■■ 開催頻度 □■■

月2回 (第2, 4水曜日)

□■■ 参加費について □■■

一律500円 (昼食別)

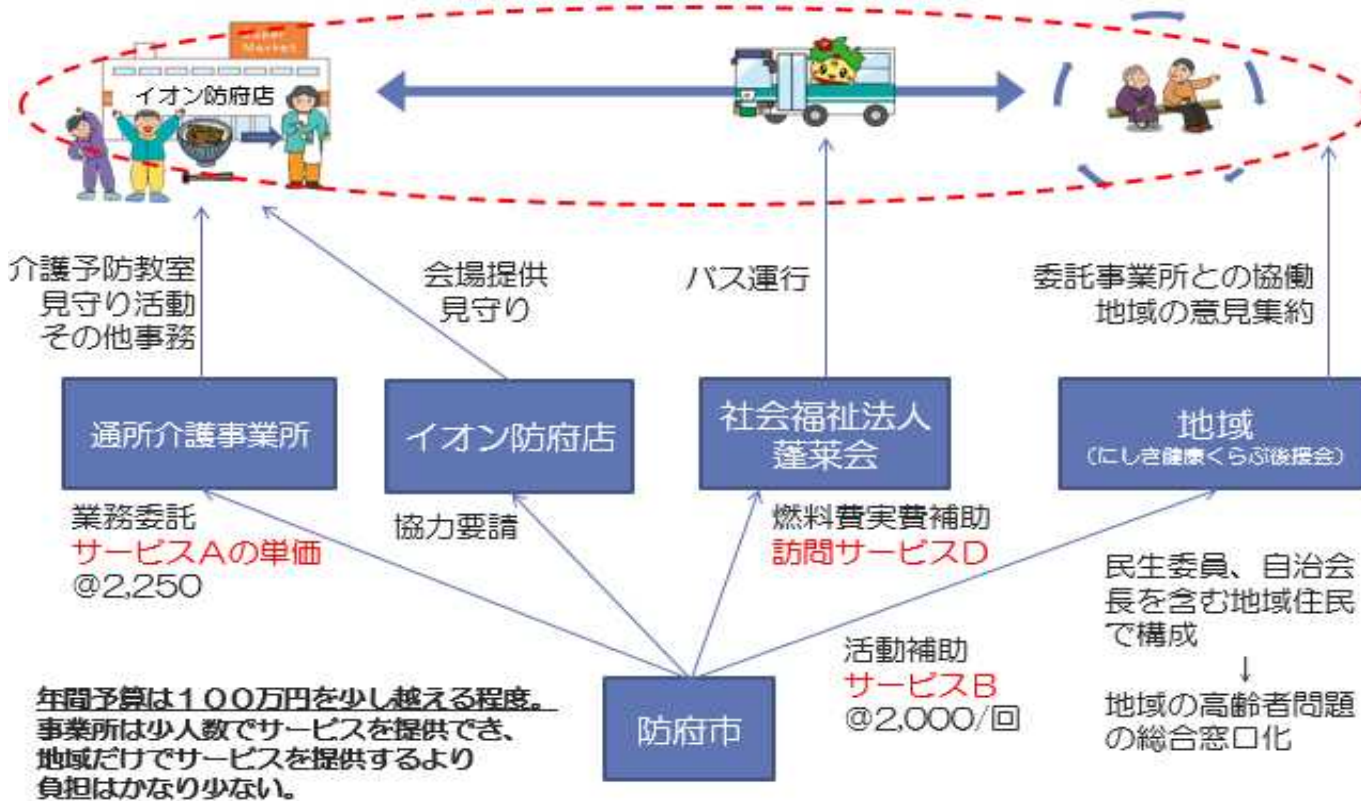
@2,500円の本サービス費用の1割250円と
損害賠償保険料及び諸費250円
(サービス費用の残り2,250円を事業所に委託)

□■■ 参加者について □■■

- ①要支援及び事業対象者
- ②65歳以上の元気高齢者
(ただし見守り等の運営補助をすることが条件)
⇒※2,250円分、介護事業所のお手伝い

「幸せます健康くらぶ」の仕組み

「幸せます健康くらぶ」の仕組み



事業実施後・・・



2つの効果

外出支援

閉じこもり
予防

目的が移動支援ではないため、公共交通機関とも客層が競合しない

その他にも・・・

「幸せます健康くらぶ in 公民館」



【基本パターンは、イオン開催と同じ】

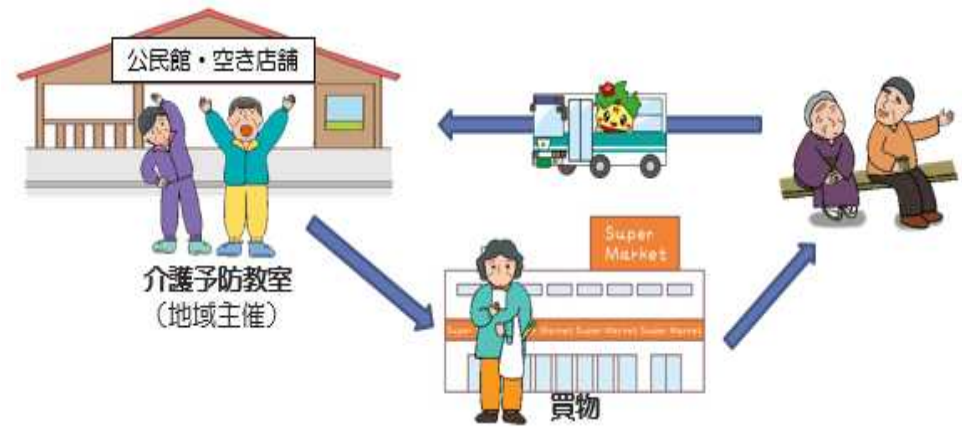
- ・買物支援として、移動販売車が公民館に
- ・文化活動（工芸品作り）
- ・地元の子育て支援団体との交流
- ・困りごと、わからないこと発表会
- ・お弁当ではなく、地元が昼食を提供するというケースも

【活性化協議会の取組み】

- ・公民館で行う幸せます健康くらぶの進化系
- ・地域の特産品の直売所を開く地域の生産者団体が運営を担う。（昼食の提供も）
- ・他地域の高齢者を呼込むことで直売所の成功⇒「活性化」

介護予防と「何か」をコラボさせる

「幸せますデイステーション」 (一般介護予防事業)



「幸せます健康くらぶ」があったからこそ、社福法人が協力してくれた例。いきなり、この形をお願いしても、受けてもらえなかったのではないかな。

地域のニーズを満たすサービスを地域と一緒に検討し、形にするために総合事業の各サービスを組み合わせさせた

「幸せます健康くらぶ」に見る総合事業

○地域と企業・法人・介護事業所等の協働が、近道であり本線

○行政のニーズ < 地域のニーズ

○「すべき地域」より「やる気のある地域」から（地域間格差を恐れない）



ひとつサービスができたことで、事業の潮目が変わった。
サービスを作るという手触りを全員（行政・地域・事業所）が感じたから。